

毎年春から夏にかけてはヒナや子どもの保護件数が増えます。何らかの影響で親とはぐれてしまった迷子もいます。今回は野生生物共生センターへの搬入としては珍しい、テンのお話です。

～ホンドテンの子どもが野生復帰しました！～

令和3年5月に福島市内から野生生物共生センターへ、ホンドテンの子どもが運ばれてきました。テンの保護は珍しく平成29年以来、4年ぶりです。発見時、周りに親はおらず「迷子」として保護されました。幸い怪我や病気は見られませんが体が弱って痩せていました。体重を増やしながら体力を回復させていきます。また、本来は親から野生で生きていく術を学ぶ時期。そのため復帰訓練を経てから野生に帰すこととなりました。

復帰訓練のために、ゲージのレイアウトを変えていきます(図1)。複雑に枝を設置し上手に木登りをさせ、カゴをシェルターとして隠れる訓練も行いました。また、小鳥の巣の中にうずらの卵を入れ食べ物を探す訓練も行いました。そして保護されて約1か月後、故郷の森の中へ元気に帰って行きました(図4)。

子どもは特に好奇心旺盛です。そのため人間に慣れさせないことが重要です。私たち動物管理員は自然に近い場所や餌を用意することは出来ても、完全に親代わりにはなれません。人間との適切な距離感を保ちながら、野生の力を信じて復帰訓練に臨んでいます。

ホンドテンは、日本の固有種で本州・四国・九州に分布しています。昔は上質な毛皮を求めて乱獲されていました。食性は雑食で果実・昆虫・小型哺乳類や両生類、鳥類、その卵など実に様々なものを食べています。ネズミなどの小動物を食べることで、その数を調整し、植物の実を食べ、その糞から種が地面にまかれ豊かな環境を作っています。どんな生物もそれぞれの役割があり、生態系のバランスを保っています。



図1

力が強く、柔軟性もあるため金網でゲージを補強しています。
注意：野生動物の飼育は法律で禁止されています。



図2



図3

図2、3 搬入時
親とはぐれたのか体が弱っていました。

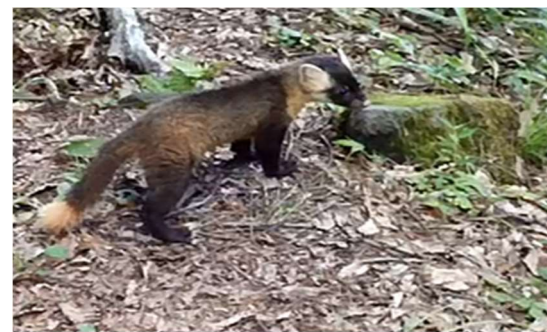


図4



図5

図4、5 野生に帰す時
体の色ははっきりし体も大きくなりました。

令和4年2月28日 福島県環境創造センター 附属 野生生物共生センター

あだたら 森の回覧板



Vol. 15 冬号



【地元の小学生が来てくれました】

10月7日(木)、本宮市立和田小学校の児童22名が、また同日午後には二本松市立杉田小学校の児童10名が研修及び施設見学を行いました。研修では、センターが担う役割や野生動物救護の現状などを通じ、私たちを取り巻く自然環境の現状や生態系を維持することの重要性についてお話させていただきました。少し難しい話もある中、真剣に耳をかたむけていました。生物多様性の保全や野生生物との共生に向け、私たち一人ひとりにできることは何かという問いかけに対しては、「食べ残しをしない」や「資源をムダづかいしない」等、数多くの意見が出されました。私たち人間とその他の生物との共生について考える機会を提供できたのではないかと思います。

センターでは随時研修の申込みを受け付けています。持続可能な社会の実現が求められる今、次世代を担う子どもたちへの環境教育や生涯学習の場としてご活用いただけますと幸いです。また、ご要望に応じて職員が出張し講義を行うことも可能です。野生生物との共生や生物多様性、野生動物等にご興味がありましたら是非お問い合わせください。



真剣に話を聞く和田小の児童さん



獣医に教わりながら顕微鏡をのぞく杉田小の児童さん

野生生物共生センターでは、野生動物の剥製やパネルの展示、映像放映等をおこなっており、入館料無料で自由に見学・閲覧できます。事前にご相談いただければ、団体でのご利用や職員による解説などの対応も可能ですので、興味をお持ちの方はお問い合わせください。
詳しくは... [HP](#) [環境創造センター](#) [検索](#)

発行: 福島県野生生物共生センター
〒969-1302
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 67
電話 0243-24-6631
開館時間 9:00~17:00
休館日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)

本誌内の文章・画像等の無断転載および複製等の行為はご遠慮ください。

施設紹介コーナー



～治療後の動物の姿をリアルタイムで観察できるカメラを設置しています～

野生生物共生センターには、治療を終えた傷病動物が自然環境に慣れるための施設が多数設置されています。施設では、気温や湿度など野生と同じ環境で元気に生きていけるか、ケガをする前と同じように飛んだり走ったりすることができるかなど、野生復帰の前段階として動物の状態や行動を確認しています。

一般の方は見ることができないエリアに設置されている施設ですが、一部施設内の様子を観察することができるライブカメラをセンター内に設置しています。傷ついた動物がどのような段階を経て野生に帰っていくのかを見ていただくことで、野生動物と私たちとの関わりについて知り、そして考えていただくために公開しています。

なかなか見ることができない野生に近い動物の姿をリアルタイムで見ることができますので、是非来館してご覧ください。

救護の状況によって、
観察できる個体は様々！



タイミングが良ければ管理
員の世話の様子や訓練の
様子が見られるかも！

★トピックス 特定外来生物への指定 ～アメリカザリガニとミシシippアカミミガメ～

現在、アメリカザリガニを除く全ての外来ザリガニが特定外来生物に指定されていることは No.12 の広報誌でお伝えしましたが、アメリカザリガニについては、指定された場合の影響が大きいことから、取扱いに関しては慎重な議論が進められています。

現在、野外で見つけることができるザリガニはほぼアメリカザリガニと言えるほど広く分布してしまっています。特定外来生物に指定されると、飼養、運搬、繁殖など様々な行為が禁止されますが、アメリカザリガニを飼養している人も多く、飼養等が規制されることで野外に放つ人が増え、かえって生態系へ大きな影響を与えてしまう可能性も心配されています。

ミシシippアカミミガメ（ミドリガメ）も同じような状況であり、この2種については特定外来生物に指定して一律に飼養等を規制するのではなく、輸入、放出、販売等の一部の行為を規制するなど、新たな仕組みの構築を含め、今後の規制のあり方が検討されています。

特定外来生物に指定されていなくても、外来生物はその地域の生態系等に被害を及ぼす可能性があります。最近では、外来カミキリムシのサビイロクワカミキリが県内で確認（国内初確認）されました。普段意識することはないかもしれませんが、実は身近なところに潜んでいるかもしれません。私たちを取り巻く豊かな自然を守るため、十分注意しながら野生生物と関わっていきたいですね。



ご意見募集中！

館内展示の充実や今後のイベント検討のため、皆さまのご意見を募集しています。こんなイベントに参加してみたい！東日本大震災が野生生物に与えた影響についてもっと詳しく知りたい！など、ご意見を館内のアンケートにてお聞かせください。

アンケートをご記入いただいた方には、野生生物共生センターオリジナルのグッズをプレゼントいたします。

※当該プレゼント企画は予告なく変更・終了する場合があります。

森の動物七夕祭りの開催

野生生物共生センターでは令和3年8月1日（日）～8月15日（日）の期間に、「森の動物七夕祭り」を開催していました。その昔、七夕祭りは旧暦で行っており、令和3年度は8月14日がその日に当たるためです。

お題は「森の動物たちに、あなたの思いを」として、126名の来館者が七夕の短冊に森の動物たちへの思いを書いてくれました。広報誌では森の動物たちが、皆さんの名作・力作の短冊の中から、4つの短冊を紹介します。



「森の動物七夕祭り」のポスター

来場者が書かれた短冊の紹介

当センターでは野生動物の調査や救護活動を行っていることもあり、野生動物の住む環境に関する短冊や、野生動物の怪我を心配する短冊が数多くみられました。他にも、新型コロナウイルス感染症の終息を願う短冊、人と動物の共生に関する短冊が多く飾られていました。

今回の企画をきっかけとし、今後も人と野生生物との関係性について考えてもらえたらうれしいです。

みんなで秋の樹をつくろう



企画の実施風景

秋には、「森の動物七夕祭り」の第2弾として、「みんなで秋の樹をつくろう」を実施しました。葉っぱ型の付箋に当センターで知ったこと・驚いたことなどを書いてもらい、壁に作った樹に貼っていただきました。また、計70枚の付箋に書かれた内容を集計し、6つの分類に分け、内容をまとめました。

集計結果をみると、野生動物のはく製を見ることでの学びや驚き、怪我をした野生動物のリハビリ訓練を応援するメッセージが多くありました。今後も、付箋に書かれた内容を参考にしつつ、展示内容や企画を考えていきます。

葉っぱ型の付箋に書かれた内容の集計結果

葉っぱの枚数	分類	内容 ※書かれていた内容を抜粋
10枚	学んだこと	実物大のはく製を見ることで、動物の特徴を学べた。
12枚	応援	怪我をした動物たち！野生復帰できるように頑張れ！
32枚	驚き・楽しい	イメージしていた動物の大きさよりも実際は大きくて驚いた。様々な鳥の鳴き声を聞けたので、楽しかった。
3枚	質問	はく製の作り方を知りたい。シカはなぜ角があるの？
2枚	要望	もっと野生動物を見たい。色々な動物の説明を読みたい。
11枚	その他	動物の絵や、動物の足跡が書かれていた。